

大阪 OSKA

あそび歩

ASOBO®

高き屋に上りてみれば

～仁徳帝の時代から近松、西鶴、直木三十五まで～

難波高津宮の仁徳天皇を祀る高津宮界隈。上町台地の中枢部にあつて、さまざまな歴史物語が伝えられているエリアですが、じつは近松、西鶴、直木三十五、梶井基次郎といった大阪を代表する文学者ゆかりの地でもあります。大阪文学の偉大なる系譜を辿りながら、高津宮へ！

①直木三十五ゆかりの地(桃園小学校跡)

当地にはかつて桃園小学校があり、作家・直木三十五(本名:植村宗一)が通っていました。直木は明治24年(1891)、現在の大阪市中央区堂堂寺町に生まれ、桃園小学校、育英高等小学校、市岡中学校と進み、早稲田大学に入学しますが月謝未納で中退。東京で雑誌編集、映画製作などを手がけましたが、関東大震災によって大阪のプラトン社へ。川口松太郎とともに娯楽雑誌『娯楽』を編集しながら、次第に時代小説を書き、昭和5年(1930)、毎日新聞連載『南国太平記』によって流行作家となりました。しかし昭和9年(1934)に結核性脳膜炎で急逝。享年43歳でした。翌年、友人の菊池寛が直木三十五賞を創設。大衆文学の登竜門として続いています。桃園小学校跡は公園となりましたが、隣の複合施設「萌」に直木三十五記念館があり、直木三十五にまつわる品物や執筆していた当時の書斎などが展示されています。

②楠大明神

かつて当地にあった本照寺の境内に植えられていたものです。道路拡張工事のため、本照寺は移転しましたが、楠には繁栄をもたらす蛇が棲んでいて「伐るとたたりが起こる」という伝承があり、それを恐れて切らなかつたと言われていました。

③近松門左衛門の墓

近松門左衛門は江戸時代に活躍した脚本家で、義理と人情の葛藤を描いた世話もの、心中もので人気を博しました。竹本義太夫や2代目義太夫のために100作を超える浄瑠璃を著し、『曾根崎心中』『心中天の網島』『女殺油地獄』といった代表作は、伝統芸能や演劇、映画などで公演され、たくさんの人に感動を与えています。もともと当地に法妙寺があり、昭和42年(1967)の谷町筋拡張工事の際、寺は大東市に移転しましたが、境内にあった近松門左衛門の墓だけは国の史跡指定を受けており、現地保存が義務づけられていたため、当地に残されました。なお、近松門左衛門墓は尼崎市の広済寺にもあります。

④熊野街道

京から大阪を経て熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)への参詣に利用された街道の総称です。摂津大坂の渡辺津(天満橋付近)を起点に、四天王寺、住吉大社、堺、和歌山などを通り、紀州田辺を経て、中辺路または大辺路によって熊野三山へと向かいます。

⑤誓願寺(井原西鶴の墓・中井一族の墓)

江戸時代の文豪・井原西鶴は、寛永19年(1642)に大坂の商家に生まれ、15歳ごろ俳諧をはじめ、西山宗因の談林派の代表的な俳人として活躍しました。生玉本覚寺で1600句、生玉本坊で4000句、住吉大社で23500句もの独吟興行を行い、矢数俳諧の第一人者となりました。その後、浮世草子『好色一代男』を発表し、『好色五人女』『好色一代女』などの好色ものや、『日本永代蔵』『世間胸算用』などの町人もので数多くの傑作を執筆しました。また誓願寺には、江戸後期に大坂商人たちが設立した学問所「懷徳堂」の創設や運営に尽力した中井一族の墓もあります。懷徳堂は町人に開放された異色の学問所で、町人たちは商業活動の基盤となる根本精神などを学んでいました。明治初年(1868)の閉校、大正時代の再建、太平洋戦争による罹災焼失を経て、現在は大阪大学が継承しています。

⑥服部良一歌碑

昭和歌謡の大ヒットメーカー・服部良一は、『東京ブギウギ』『銀座カンカン娘』『青い山脈』ほか、当時最先端のジャズなど洋楽のリズムやビートを歌謡曲に大胆に持ち込み、日本の音楽を創り上げた『日本ポップスの父』で、手がけた楽曲は3500曲を超えると言われております。平成5年(1993)1月に他界し、同年2月には国民栄誉賞を受賞。服部良一歌碑は母校の東平小学校跡地に平成16年(2004)建立されました。服部良一作曲の『青い山脈』の楽譜が彫られており、ボタンを押すとスピーカーから曲が流れ出すしくになっています。

⑦本経寺(豊竹若太夫の墓)

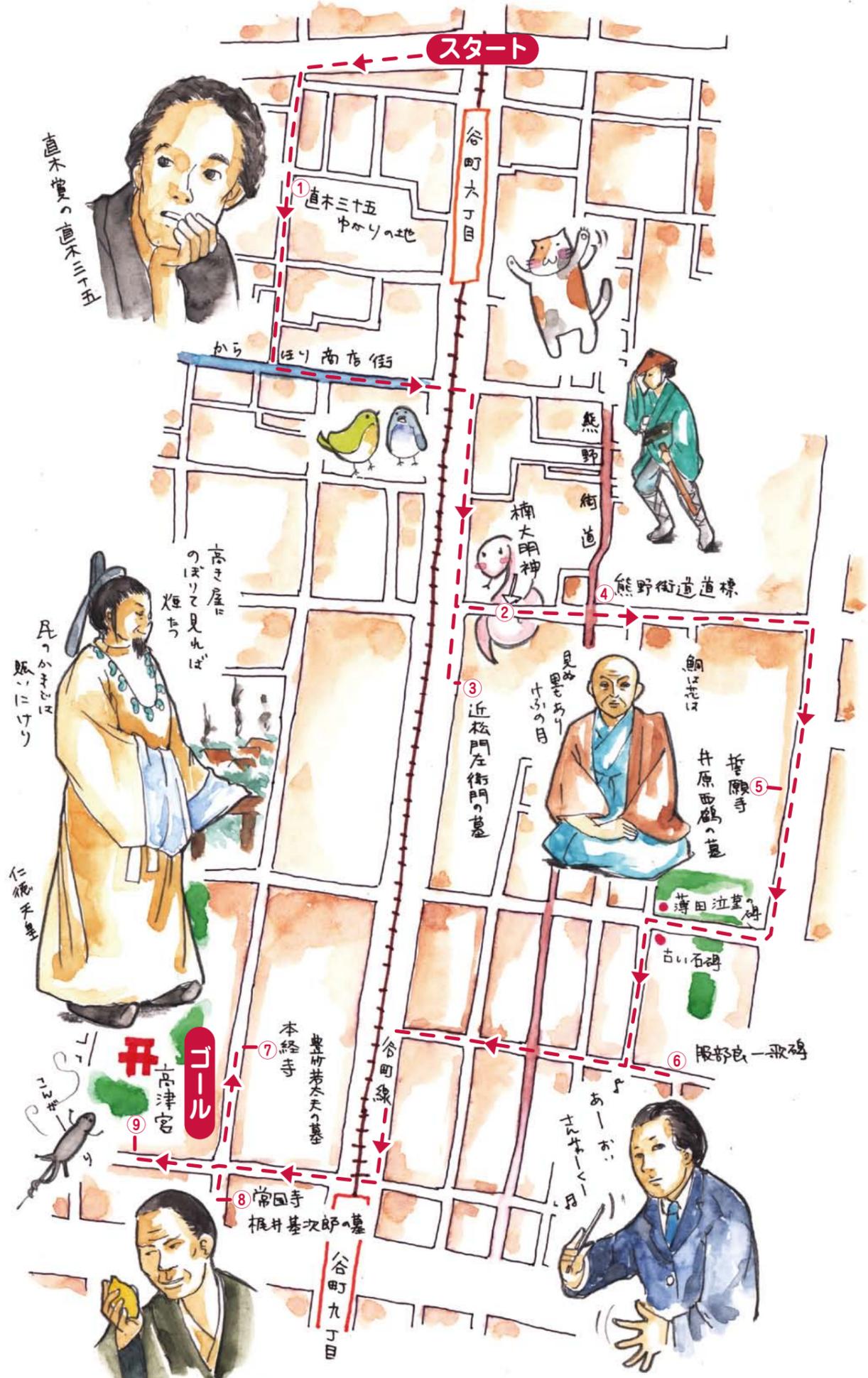
豊竹若太夫は竹本義太夫と並び、活躍した浄瑠璃の太夫で「竹本座」のライバル「豊竹座」の創始者です。天和元年(1681)大坂に生まれ、竹本義太夫の門人となり、17歳ごろから竹本采女の芸名で舞台に。元禄16年(1703)に独立して、豊竹若太夫の名で道頓堀「竹本座」東側に「豊竹座」を創始しました。天性の美声を生かした華麗な節回しは、世人から竹本座の「西風」に対し、「東風」と呼ばれ、独特の芸風を確立しました。また竹本座と豊竹座が競い合ったところに浄瑠璃の発展があり、後には融合され、現在の浄瑠璃の節回しの基本となりました。

⑧常国寺(梶井基次郎墓・初代中村鴈治郎墓)

近代日本文学の小説家・梶井基次郎は明治34年(1901)、大阪市西区土佐堀通で父・宗太郎、母・ヒサの次男として生まれ、北野中学から東京帝大英文科に進んだ後、大正14年(1925)に同人誌『青空』を創刊して『檸檬』を発表。当時は全く売れませんでした。しかし翌年に、中学校時代からの持病である肺結核のため、31歳の若さで早逝。死後、時とともに評価が高まり、今日では、近代日本文学の古典の位置を占めています。また常国寺には近代上方歌舞伎を代表する歌舞伎役者・初代中村鴈治郎の墓もあります。鴈治郎は上方歌舞伎の伝統である和事(男女の恋の姿)には色気が不可欠と提唱し、種々の工夫を加えた彼の演技は観客を魅了し、特に近松ものは天下一品と評判になりました。

⑨高津宮

主祭神は難波高津宮に遷都した仁徳天皇です。貞観8年(866)、勅命により難波高津宮の遺跡が探索され、その地に社殿を築いて仁徳天皇を祀ったのが始まりと言われております。その後、天正11年(1583)に豊臣秀吉が大坂城を築城する際、比売古曾神社の境内(現在地)に遷座されました。昭和20年(1945)3月に第二次大戦の戦火を浴び、神輿庫を一つ残して社殿が全て焼失しましたが、昭和36年に再建されました。商売、芸能の神様である宇賀御魂神が祀られた高倉稲荷神社や、安産の神様として信仰される安井稲荷があります。また5代目桂文枝の石碑、近松門左衛門など文楽の研究者であった木谷蓬吟とその妻で画家の木谷千種夫妻の石碑、明治時代に浪華情緒あふれる美人画家として名をはせた北野恒富の筆塚など、さまざまな旧跡が点在しています。それらの見どころをとりまとめた「高津宮散策マップ」(高津地区まちづくり協議会作成)が配布されています。



【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそ歩** でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。